

全国被災建築物応急危険度判定協議会が発行している判定マニュアルが改訂された。

主な改訂ポイント

◆判定ステッカーの変更

【これまで】 A3 危険・要注意・調査済み

【改訂後】 建築物：A3 危険・要注意・調査済み（チェックボックス新設）

落下物危険物、転倒危険物（裏表）：A4 危険・要注意

※落下危険物、転倒危険物には調査済みステッカーは貼付けしない

※落下・転倒危険物を比較的容易に撤去出来る場合は、危険要因の撤去後、ステッカーを外せる旨所有者等に伝えてもよい

※備蓄していた従来の様式は今後も使用可能

◆附属建築物の判定について追記

居室利用されているものや利用頻度が高いと想定されるもの、倒壊や転倒等により一般の歩行者等に危険が及ぶ恐れがあるものを対象とすることが考えられる。

[判定必要の例]

母屋の離れとして居室利用されていると想定されるもの、道路に面している大きな蔵や倉庫及びブロック塀など

[判定不要の例]

小規模な倉庫やカーポートなど、一見して危険が及ぶ恐れが低いと想定できるもの

◆高層建築物の判定について追記

・原則として本マニュアルの適用範囲外となる建築物の高さが 10 階程度以上の高層建築物や、大スパン構造、立体トラス構造、吊り構造、大規模木造建築物などの特殊構造の建築物などについては、**当該建築物の所有者等が、早期に建築士等の専門技術者に連絡し調査を実施することが想定されている。**なお、所有者等が対応できない場合も想定し、あらかじめ、それぞれの地域において建築関係団体等と判定活動の協力に関する取り決めや、協定等を結んでおくことなど、**地域ごとの特性も考慮し体制を整えておくこと**などが考えられる。

・構造ヘルスマニタリング[※]を実施している建築物については、当該システムによる結果を応急危険度判定に活用できるものとする。

※構造物にセンサーを取り付けて振動などを読み取り、信号処理手法を用いて構造物の損傷・劣化箇所の診断や予測を行う技術

◆液状化の判定について追記

周辺地盤が液状化した場合、建築物全体が傾斜している場合がある。基礎の一体性が保たれており、**建築物全体が一体となって傾斜している場合には、「①周辺地盤の破壊による危険」は、AランクまたはBランクと判定する。**ただし、**地割れや空洞、側方流動などにより地盤の支持能力の低下、損傷が進行する可能性が高い場合には、Cランクとする。**また、不同沈下によって建築物に局所的な変形、損傷が生じている場合は②～⑥の構造躯体に関する危険度で判定することになり、**④建築物の1階の傾斜」は、建築物全体ではなく、1階の層間変位を判定することになる。**



表側



裏側

写真-3 建物が傾斜しているが、傾斜は全体的で基礎の一体性が保たれている（Bランク）



写真-4 地盤の沈下は部分的で収まっており、基礎の一体性が保たれている（Bランク）

(1) 建築物判定ステッカー（A3版）

建築物 応急危険度判定結果	
危険 UNSAFE	
◆この建築物に立ち入ることは危険です ◆立ち入る場合は専門家に相談し、応急措置を行った後にして下さい	
建築物名称	
注記： <input type="checkbox"/> 隣接建築物の傾斜、地盤の破壊、液状化により基礎下部地盤の崩壊 <input type="checkbox"/> 不同沈下あり(屋根のゆがみ、床が波打つ) <input type="checkbox"/> 基礎の破壊、ひび割れ、土台との接合部破壊 <input type="checkbox"/> 建築物の傾斜、建具の損傷やズレ <input type="checkbox"/> 外壁に亀裂、剥落 <input type="checkbox"/> 構造躯体に腐食、蟻害 <input type="checkbox"/> その他()	
整理番号	
判定日時	月 日 午前・午後 時現在
	災害対策本部 電話 -

図1 「危険」を表示する建築物判定ステッカー（赤色）

建築物 応急危険度判定結果	
要注意 LIMITED ENTRY	
◆この建築物に立ち入る場合は十分注意して下さい ◆応急的に補強する場合には専門家に相談下さい	
建築物名称	
注記： <input type="checkbox"/> 隣接建築物の傾斜、地盤の破壊、液状化により基礎下部地盤の崩壊 <input type="checkbox"/> 不同沈下あり(屋根のゆがみ、床が波打つ) <input type="checkbox"/> 基礎の破壊、ひび割れ、土台との接合部破壊 <input type="checkbox"/> 建築物の傾斜、建具の損傷やズレ <input type="checkbox"/> 外壁に亀裂、剥落 <input type="checkbox"/> 構造躯体に腐食、蟻害 <input type="checkbox"/> その他()	
整理番号	
判定日時	月 日 午前・午後 時現在
	災害対策本部 電話 -

図2 「要注意」を表示する建築物判定ステッカー（黄色）

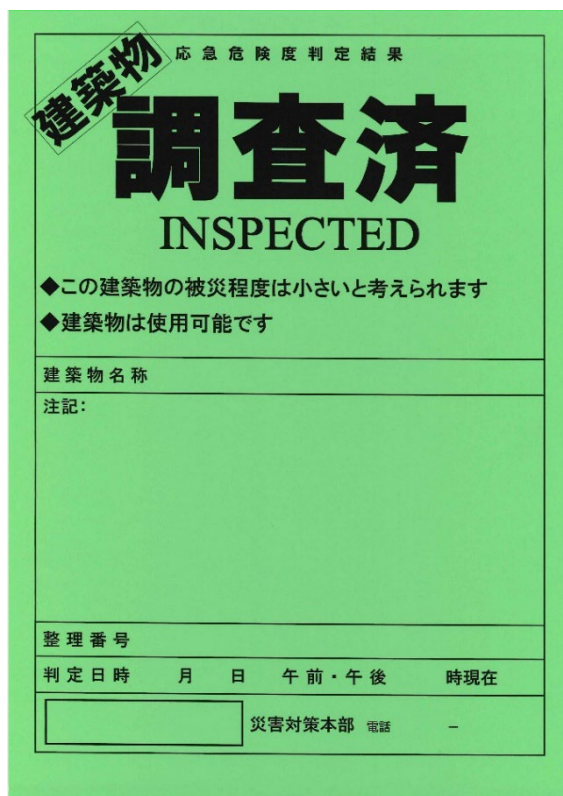
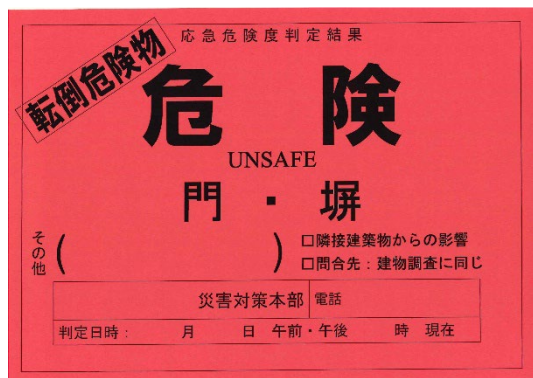
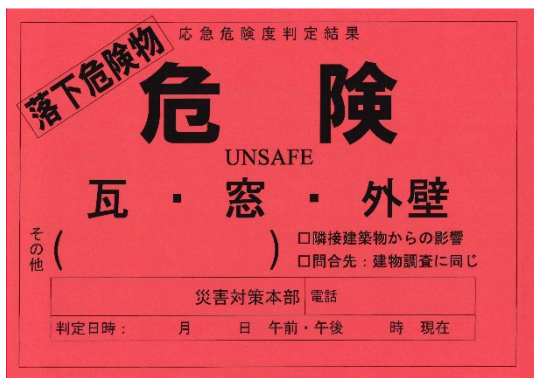


図3 「調査済」を表示する建築物判定ステッカー（緑色（若竹色））

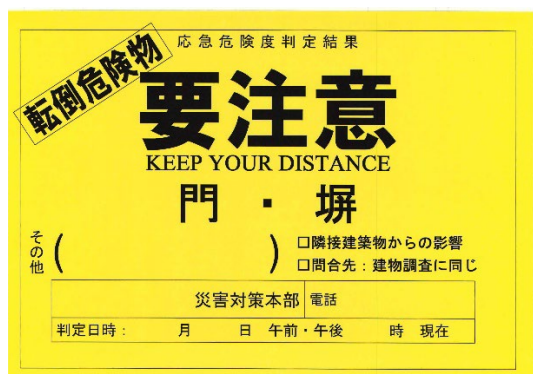
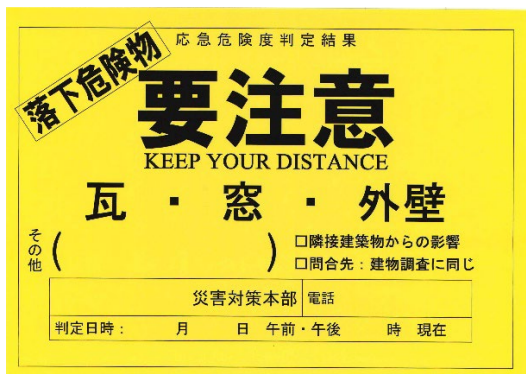
(2) 落下危険物・転倒危険物判定ステッカー（A4版）



表面 落下危険物

裏面 転倒危険物

図4 「危険」を表示する落下危険物・転倒危険物判定ステッカー（赤色）



表面 落下危険物

裏面 転倒危険物

図5 「要注意」を表示する落下危険物・転倒危険物判定ステッカー（黄色）

5

木造建築物の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

整理番号 _____ 調査日時 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 調査回数 _____ 回目
 調査者氏名 (都道府県/No) _____ (_____ / _____)

建築物概要

- 1 建築物名称 _____ 1.1 建築物番号 _____
 2 建築物所在地 _____ 2.1 住宅地図整理番号 _____
 3 建築物用途 1. 戸建て専用住宅 2. 長屋住宅 3. 共同住宅 4. 併用住宅 5. 店舗 6. 事務所
 7. 旅館・ホテル 8. 庁舎等公共施設 9. 病院・診療所 10. 保育所 11. 工場
 12. 倉庫 13. 学校 14. 体育館 15. 劇場、遊戯場等 16. その他 (_____)
 4 構造形式 1. 在来軸組構法 2. 枠組(壁)工法(ツバイフネ) 3. プレファブ 4. その他 (_____)
 5 階数 1. 平屋 2. 2階建て 3. その他 (_____)
 6 建築物規模 1階寸法 約^ア _____ m × ^イ _____ m

木

整理番号 _____

建築物番号 _____

住宅地図整理番号 _____

3 _____

4 _____

5 _____ 階

ア _____ m

イ _____ m

木
造

調査 調査方法：(1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し、2の判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (_____)

調査方法 _____

1 _____

2 隣接建築物・当該建築物周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・当該建築物周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
②構造躯体の不同沈下	1. 無し又は軽微	2. 著しい床、屋根の落ち込み、浮き上がり	3. 小屋組の破壊、床全体の沈下
③基礎の被害	1. 無被害	2. 部分的	3. 著しい(破壊あり)
④建築物の1階の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60~1/20	3. 1/20超
⑤壁の被害	1. 軽微なひび割れ	2. 大きな亀裂、剥落	3. 落下の危険あり
⑥腐食・蟻害の有無	1. ほとんど無し	2. 一部の断面欠損	3. 著しい断面欠損
構造躯体等の危険度の判定	1. 調査済 全部Aランクの場合 (要内観調査)	2. 要注意 Bランクが1以上の場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

判定 _____

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①瓦	1. ほとんど無被害	2. 著しいずれ	3. 全面的にずれ、破損
②窓枠・窓ガラス	1. ほとんど無被害	2. 歪み、ひび割れ	3. 落下の危険あり
③外装材 湿式の場合	1. ほとんど無被害	2. 部分的なひび割れ、隙間	3. 顕著なひび割れ、剥離
④外装材 乾式の場合	1. 目地の亀裂程度	2. 板に隙間が見られる	3. 顕著な目地ずれ、板破壊
⑤看板・機器類	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 落下の危険あり
⑥屋外階段	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 明瞭な傾斜
⑦その他 (_____)	1. 安全	2. 要注意	3. 危険
落下物等危険度の判定	1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1以上ある場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

⑦ _____

判定 _____

コメント

判定ステッカー注記でチェックした項目以外に、その他として特記した事項を記入する。

鉄骨造建築物の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

整理番号 _____ 調査日時 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 調査回数 _____ 回目
 調査者氏名（都道府県/No） _____ (_____ / _____)
 _____ (_____ / _____)

S

整理番号 _____

建築物概要

- 1 建築物名称 _____ 1.1 建築物番号 _____
 2 建築物所在地 _____ 2.1 住宅地図整理番号 _____
 3 建築物用途 1. 戸建て専用住宅 2. 長屋住宅 3. 共同住宅 4. 併用住宅 5. 店舗 6. 事務所
 7. 旅館・ホテル 8. 庁舎等公共施設 9. 病院・診療所 10. 保育所 11. 工場
 12. 倉庫 13. 学校 14. 体育館 15. 劇場、遊戯場等 16. その他 (_____)
 4 構造形式 1. ラーメン構造 2. プレース構造 3. プレファブ 4. その他 (_____)
 5 階数 地上 _____ 階 地下 _____ 階
 6 建築物規模 1 階寸法 約 _____ m × _____ m

建築物番号 _____

住宅地図整理番号 _____

3 _____
 4 _____
 地上 _____ 階
 地下 _____ 階
 ア _____ m
 イ _____ m

調査 調査方法：(1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

- 1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し、2の判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (_____)

調査方法 _____

1 _____

2 隣接建築物・当該建築物周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・当該建築物周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
②不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/300 以下	2. 1/300～1/100	3. 1/100 超
③建築物全体又は一部の傾斜			
傾斜が生じた階の上の階数が1階以下の場合	1. 1/100 以下	2. 1/100～1/30	3. 1/30 超
傾斜が生じた階の上の階数が2階以上の場合	1. 1/200 以下	2. 1/200～1/50	3. 1/50 超
④部材の座屈の有無	1. 無し	2. 局部座屈あり	3. 全座屈あるいは著しい局部座屈
⑤筋かいの破断率	1. 20%以下	2. 20%～50%	3. 50%超
⑥柱梁接合部及び継手の破壊	1. 無し	2. 一部破断あるいは亀裂	3. 20%超の破断
⑦柱脚の破壊	1. 無し	2. 部分的	3. 著しい
⑧腐食の有無	1. ほとんど無し	2. 各所に著しい錆	3. 孔食が各所に見られる
構造躯体等の危険度の判定	1. 調査済 全部Aランクの場合 (要内観調査)	2. 要注意 Bランクが3以内の場合	3. 危険 Cランクが1以上又は Bランクが4以上

① _____

② _____

③ _____

被害最大の階

④ _____ 階

⑤ _____

⑥ _____

⑦ _____

⑧ _____

判定

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①屋根材	1. ほとんど無被害	2. 著しいずれ	3. 全面的にずれ、破損
②窓枠・窓ガラス	1. ほとんど無被害	2. 歪み、ひび割れ	3. 落下の危険あり
③外装材 湿式の場合	1. ほとんど無被害	2. 部分的なひび割れ、隙間	3. 顕著なひび割れ、剥離
④外装材 乾式の場合	1. 目地の亀裂程度	2. 板に隙間が見られる	3. 顕著な目地ずれ、板破壊
⑤看板・機器類	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 落下の危険あり
⑥屋外階段	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 明瞭な傾斜
⑦その他 (_____)	1. 安全	2. 要注意	3. 危険
落下物等危険度の判定	1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1以上ある場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

⑦ _____

判定

コメント

判定ステッカー注記でチェックした項目以外に、その他として特記した事項を記入する。

S
造

鉄筋及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物等の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

RC

整理番号 _____ 調査日時 _____ 月 _____ 日 午前・午後 _____ 時 調査回数 _____ 回目
 調査者氏名（都道府県/No） _____ (_____ / _____)
 _____ (_____ / _____)

建築物概要

- 1 建築物名称 _____ 1.1 建築物番号 _____
 2 建築物所在地 _____ 2.1 住宅地図整理番号 _____
 3 建築物用途 1. 戸建て専用住宅 2. 長屋住宅 3. 共同住宅 4. 併用住宅 5. 店舗 6. 事務所
 7. 旅館・ホテル 8. 庁舎等公共施設 9. 病院・診療所 10. 保育所 11. 工場
 12. 倉庫 13. 学校 14. 体育館 15. 劇場、遊戯場等 16. その他 (_____)
 4 構造種別 1. 鉄筋コンクリート造 2. プレキャストコンクリート造 3. ブロック造
 4. 鉄骨鉄筋コンクリート造 5. 混合構造 (_____) と (_____)
 5 階数 地上 _____ 階 地下 _____ 階
 6 建築物規模 1 階寸法 約 _____ m × _____ m

調査 調査方法：(1. 外観調査のみ実施 2. 内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し、2の判定へ)

1. 建築物全体又は一部の崩壊・落階	2. 基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3. 建築物全体又は一部の著しい傾斜	4. その他 (_____)

2 隣接建築物・当該建築物周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

判定		Aランク	Bランク	Cランク
判定(1)	① 損傷度Ⅲ以上の損傷部材の有無	1. 無し	2. 有り	
判定	② 隣接建築物・当該建築物周辺地盤の破壊による危険	1. 危険無し	2. 不明確	3. 危険あり
	③ 地盤破壊による建築物全体の沈下	1. 0.2m以下	2. 0.2m～1.0m	3. 1.0m超
	④ 不同沈下による建築物全体の傾斜	1. 1/60以下	2. 1/60～1/30m	3. 1/30超
	⑤ 柱の被害（下記⑤⑥の調査階（被害最大の階）階）（壁構造の場合は柱を壁の長さに読みかえる）			
(2)	⑤ 損傷度Ⅴの柱本数/調査柱本数	損傷度Ⅴの柱総数 1. 1%以下	本調査柱 2. 1%～10%	本調査柱 3. 10%超
	⑥ 損傷度Ⅳの柱本数/調査柱本数	損傷度Ⅳの柱総数 1. 10%以下	本調査柱 2. 10%～20%	本調査柱 3. 20%超
	判定(2)	1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1の場合	3. 危険 Cランクが1以上又はBランクが2以上
構造躯体等の危険度の判定 判定(1)と判定(2)のうち大きな方の危険度で判定する		1. 調査済 (要内観調査)	2. 要注意	3. 危険

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
① 窓枠・窓ガラス	1. ほとんど無被害	2. 歪み、ひび割れ	3. 落下の危険あり
② 外装材 湿式の場合	1. ほとんど無被害	2. 部分的なひび割れ、隙間	3. 顕著なひび割れ、剥離
③ 外装材 乾式の場合	1. 目地の亀裂程度	2. 板に隙間が見られる	3. 顕著な目地ずれ、板破壊
④ 看板・機器類	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 落下の危険あり
⑤ 屋外階段	1. 傾斜無し	2. わずかな傾斜	3. 明瞭な傾斜
⑥ その他 (_____)	1. 安全	2. 要注意	3. 危険
落下物等危険度の判定	1. 調査済 全部Aランクの場合	2. 要注意 Bランクが1以上ある場合	3. 危険 Cランクが1以上ある場合

コメント

判定ステッカー注記でチェックした項目以外に、その他として特記した事項を記入する。

整理番号 _____
 建築物番号 _____
 住宅地図整理番号 _____
 3 _____
 4 _____
 地上 _____ 階
 地下 _____ 階
 ア _____ m
 イ _____ m
 調査方法 _____
 1 _____
 判定(1)
 ① _____
 ② _____
 ③ _____
 ④ _____
 柱の被害最大の階 _____ 階
 ⑤ _____
 ⑥ _____
 判定(2)

 判定

R
C
造